

2025年度 国公立大学・私立大学入試の分析

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 坂本 新一

2025年度は、新課程となってから初の大学入試となった。国公立大学・私立大学で出題された「歴史総合、世界史探究」の入試問題のうち、印象的だったものを紹介する。

1 国公立大学入試

(1) 傾向と対策

既に国公立大学の入試問題において、例えば思考力・判断力を重視し、史料文や図版の読み取りを求めるような傾向、すなわち「歴史総合、世界史探究」を先取りしたような出題は見られていた。そのため、「世界史探究」については過去問の演習などを通じて準備可能だったと言えよう。しかし、「歴史総合」の出題については、過去問が存在しないことから未知数なところが大きかった。今回の入試問題から指針を見いだすとすれば、過度に日本史分野の語句を暗記するのではなく、歴史を学ぶにあたっての考え方や手法を身につけ、時間軸や因果関係を踏まえて学習を進めていくという従来の学習の延長上にあることになるのだろう。以下、「歴史総合」の出題例を紹介し、分析したい。

(2) 歴史総合の出題例

●例題1 2025年度 東京外国語大学：歴史総合

以下は、東アジアの「近代化」をめぐる歴史総合で学んだことについての、先生と生徒のやりとりである。二人のやりとりと資料を読み、以下の問に答えなさい。
(略)

[B] 小野寺史郎『戦後日本の中国観』

一般にアジア主義という主張の開始は、海軍軍人曾根俊虎^{そね としとら}らが1877年に結成した「振亜社」、そして1880年にそれを改組して成立した「興亜会」に求められる。
(略)

[出典：小野寺史郎『戦後日本の中国観—アジアと近代をめぐる葛藤』中央公論新社、2021年。なお、一部の表現を改めた。引用箇所を一部変更した。また、引用は現代語に改めた。]

先生 ここまで読んでみて、この「アジア主義」と「脱亜論」の違いは何だと思う？

生徒 前者にはアジアと連帯するという意識がはっきりあるけれど、後者ではほとんど消えてしまっていますね。「脱亜論」は歴史総合の授業でも読みましたけれど(略)

[E] 中塚明・井上勝生・朴孟洙『東学農民戦争と日本』

東京を離れて広島に設置されていた大本営は、1894年10月26日昼前後に、忠清道東学農民軍が一斉蜂起したことを知りました。それに対し、川上操六兵站總監^{かわかみ そうろく}は、(中略)東学農民「悉く殺戮^{ことごとく ころす}」命令を出したのです。 (中略)「東学党に対する処置は厳烈なるを要す、向後〔今後は〕悉く殺戮すべしと」。

(略)

[出典：中塚明・井上勝生・朴孟洙『東学農民戦争と日本—もう一つの日清戦争』高文研、2013年。なお、一部の表現を改めた。]

生徒 国際法を全然遵守してないじゃないですか…。

先生 そこが「文明化」という言葉の怖いところなんだ。日本がモデルとした欧米諸国も植民地に対しては差別的な待遇をしていたけど、それを正当化していたのが文明と野蛮という区別で、相手を野蛮と見なしてしまえばそれこそどんなに野蛮な行為も許されてしまうかのような雰囲気があったんだよね。

(略)

生徒 「近代化」と「文明化」ってなんとなく同じようなものだと思っていたんですけど、実はかなり違うんですね。これからはそういう用語にもう少し気を付けようと思います。

(略)

問6 資料[A]～[E]の記述を踏まえると、日本の「近代化」とはどのような特徴を持っていると言えるだろうか。日本が「文明化」の道を進む上で日清戦争がもった意味を踏まえて、先生と生徒の対話も参考にしながら、300字以内で述べなさい。また、以下の語句を必ず用い、使用した箇所すべてに下線を引きなさい。

語句：条約改正 外国債 国際法 東洋連衡 文明諸国 東学農民軍

※(略)は紙幅の都合上、省略した部分。

※解答例は、東京外国語大学のサイトで公表。

東京外国語大学では、事前に発表されたサンプル問題において、「歴史総合」で学ぶ重要テーマである「近代化」「大衆化」「グローバル化」のうち、「大衆化」を扱った。本試験では「近代化」が出題され、5つ（森有礼と李鴻章の会話を入れると6つ）の資料と先生と生徒の会話を読み、「アジア主義」「文明化」「日清戦争」などを踏まえ、日本の「近代化」の特徴を問うた。形式は、これまでの「世界史B」の入試を踏襲しており、歴史的理解を前提として、与えられた資料や問題文を踏まえて解答を作成することが求められている。単に日本史分野を出題するから「歴史総合」なのではなく、どう歴史を学んできたかという学習姿勢も問われているという点で、「歴史総合」の好例として取り上げた。

本問では日清戦争と関連づけて日本の「近代化」の特徴を論じさせているが、例えば『明解 歴史総合』p.78では、「歴史の選択肢 日露戦争に関するさまざまな意見」の中で、幸徳秋水や内村鑑三の史料などを扱っている。戦争を巡っての多角的な視点を養う上で有益である。また、『明解歴史総合図説シンフォニア』（以下、『シンフォニア』）のp.100では、「MORE」というコラムで、福沢諭吉と中江兆民の「文明」論を比較・考察している。脱亜論などの「文明」論をこうした箇所を通じて相対化・考察できていれば、本問も取り組みやすいはずである。

東京外国語大学のほか、**名古屋大学**や**一橋大学**も、日本史と共通という形で「歴史総合」を出題した。**名古屋大学**は、手塚治虫の漫画を題材に義和団戦争を、**一橋大学**は史料に基づき韓国併合を扱った。どちらの問題も「世界史探究」を通じた学習内容で解答可能ではあるものの、前者は図版（手塚治虫の漫画）の内容、後者は史料の内容を読み取ることが必須となっている。

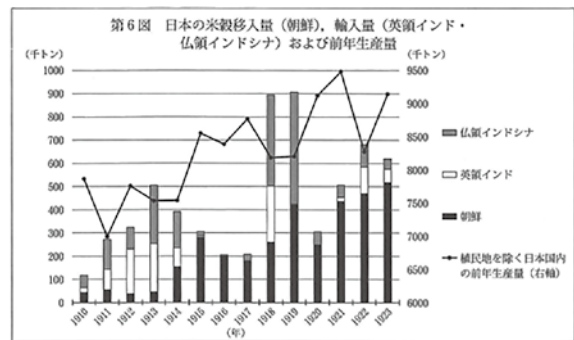
2 私立大学入試

(1) 傾向と対策

私立大学においても、学習指導要領の改訂や共通テストの実施などを背景に、これまで「歴史総合、世界史探究」を先取りしたような出題が見られており、史料や図版などを組み込んだ学習が求められていた。その傾向は、これからも変わらないだろう。「歴史総合」については、関東私大を中心として、少なからずの大学が出題範囲としたが、「歴史総合」の入試初年度としては、日々の世界史学習の中ではほぼ対応可能であった。年度を重ねる中でこの傾向に変化が生じるのかは、もう少し判断に時間が必要である。以下、実際の出題例を紹介する。

(2) 歴史総合の出題例

●例題2 2025年度 慶應義塾大学：経済学部IV



〔資料出所〕大豆生田稔「米騒動前後の外米輸入と産地」

『東洋大学文学部紀要・史学科編』43（2017年）より作成

資料a（必要に応じて表現を改めた）

サイゴン米は従来その輸出を禁止し又は制限したることなかりしが、大正7-8（1918-19）年の米作十分なる豊収を見るあたわざりし時にあたり、世界的糧食不足による各地よりの需要増加し、輸出を自然に放任せば域内における米価を騰貴せしむるのみならず、無制限なる輸出はついに一般住民の消費米を空乏せしむる恐れあり。（中略）仏領インドシナ総督は（中略）大正8（1919）年2月以降毎月6万トンの米穀（白米および^{もみ}）に対し特許主義により輸出を許可し（中略）たり。（中略）9月以降は絶対的米の輸出を禁止したり。（中略）1918年（中略）7、8月の交約1ヶ月にわたる大干魃^{かんばつ}によりインドにおける農作物の不作により国内の食糧品大払底を告ぐるにおよび、インド政庁は食糧管理に関する官制を發布し、一時米穀の輸出を絶対に禁止したりしが、その後再び（中略）輸出許可を与えたり後同年11月初旬以降は全然絶対に輸出を禁止せり。ビルマにおいてはインド、セイロンおよび海峡植民地に対しても月額を定め特許主義によりて輸出することをえたり。

〔資料出所〕農商務省『外米ニ關スル調査』大正9（1920）年3月

問14 みらい君は、第6図に示された1910年から1919年までの時期の動きをみて、外国からの輸入量と日本の前年生産量との間に何らかの関係があると考えました。あなたは、みらい君が第6図からどのような関係を読みとったと考えますか。〔解答用紙B〕の所定の欄の範囲内で記述しなさい。

問15 みらい君は、第6図に示された1920年以降の動きをみて、資料aに記されている状況が1920年以降の日本の米移入・輸入量に影響を与えたのではないかと考えました。これについて、あなたは、みらい君が第6図と資料aからどのような影響を読みとったと考えますか。問14で読みとった関係に触れながら、〔解答用紙B〕の所定の欄の範囲内で記述しなさい。

解答例：

問 14 日本の前年生産量が、低下すると輸入量が増加し、上昇すると減少する。

問 15 仏領インドシナと英領インドでは、不作を機にいずれの植民地政府も領内の需要を確保するため米穀の輸出の制限・禁止など管理を強化した。そこで日本は、生産量の低下した分は、植民地である朝鮮で米を増産させ、朝鮮からの米穀の移入によって補うようにした。

※解答例は河合塾による。

慶應義塾大学経済学部では、大問Ⅳで「歴史総合」が出題された（日本史との共通問題、日本史では大問Ⅲ）。米騒動の時期の世界的な米穀生産の状況や、植民地支配下の朝鮮における米穀生産などを題材としている。グラフや史料などを読み解く「思考力」と、そこから得た情報を論理的に結びつける「判断力」、それを論述する「表現力」が求められている。

この問題と関連して、『シンフォニア』p.120 の特集「日本の帝国主義」では、④「韓国併合以降の朝鮮の変化」として、農地面積・米輸出量などの表を掲載している。こうした図表を用いた学習が、対策として効果的であろう。表下のキャプションには「1920 年以降には、日本に供給する米を増産するための朝鮮産米増殖計画が進められた」と書かれており、ほぼ問 15 の解答となっている。この問題も、単に日本を扱っているというだけでなく、「歴史総合」で習得すべき歴史を学ぶ姿勢が問われていると言えよう。

(3) 世界史探究の出題例

●例題 3 2025 年度 同志社大学：2 月 6 日大問 I

資料

省略

省略

（井上文則『シルクロードとローマ帝国の興亡』文春新書、2021 年、107、110、116 頁より引用。）

W シルクロード交易において、ローマ帝国からの輸出品として葡萄酒が、インドから地中海世界への輸出品として胡椒があった。

X 「トラヤヌスの運河」を初めて完成させたアケメネス朝の王の下で、ペルセポリスの建設が始まった。

Y トラヤヌスは「草原の道」の多くをその領内に収めるパルティアに遠征しただけでなく、「トラヤヌスの運河」の開削を通じて、紅海を通る交易の活発化も図った。

Z ネコ 2 世による「トラヤヌスの運河」の建設への着手は、クフ王がファラオの権力を示す巨大なピラミッドを建設したのと同様に、古王国時代の特徴である。

※この後、W～Z の組み合わせで 16 択の選択肢。省略。

※正しい選択肢は W と X。

本問は、紅海交易ルートについての正誤判定問題である。本問では、一般的な受験生が知らない事柄が正誤判定の選択肢に含まれており、与えられた資料から読み取る必要がある。ただし、単なる資料の読み取りで解答できるわけではなく、例えばエジプト古王国の時期といった時間軸の理解や、地理的な理解も求められている。

同時代の理解を深めるためには『最新世界史図説タペストリー』（以下、『タペストリー』）p.10 の「1～2 世紀の世界」などを通じて、同時代史を俯瞰する視点を養うとよいだろう。『タペストリー』の最初にある「○世紀の世界」の世界全図は、「世界史探究」の対策としていっそう大切である。また、『新詳世界史探究』p.75 の「ローマ帝国の遠隔地商業ネットワーク」の地図も、産物まで記されており理解が深まる。上手に活用して入試対策を進めたい。